この2人に聞く!!

ジェネラルマネジャー
高橋　善幸
チームディレクター
桜庭　吉彦

シーウェイブス中長期計画発表
～勝利を裏づける未来への期待度～

釜石シーウェイブス（SW）では、2006年に広域化とクラブ目的の再獲得を検討課題とし、強化体制の三つのビジョン“強いチーム”“地域を誇りとするチーム”“希望を与え愛されるチーム”を打ち出しました。そして2007年イーハトーブの立ち上げによる広域化に乗り出し、同時に雇用安定による人材確保、資金調達に着手。事業進展による一定の成果を得ながら検討を続けてきた中長期にわたる強化計画が、2008年総会において発表されました。

そこで、今季よりジェネラルマネジャーとしてチームを牽引する高橋善幸氏、２年ぶりにチームディレクターとして現場に立つ桜庭吉彦氏、ともに中長期計画を中心になって作成した両名へのインタビューを通じて、ＳＷの未来への期待度を探ってみたいと思います。

現状認識について

高橋　地域共生クラブチームであるＳＷが対戦する相手は、ほとんど全てが企業チームです。企業チームですから、すべてではないにしても、強化を目的としたある程度の枠をもって選手を確保し、補強ができています。また職場が一緒でチームがまとまって練習ができるし、練習にさける時間・内容なども確保できます。SWと対戦相手との相対的な比較という観点からは、高いレベルの選手の確保、そして、確保した選手の活動する環境、といったチーム強化の２つの問題を抱えているのがSWといえるでしょう。

そういった部分を一気に解消はできないのですが、サポートしてくれる多くの人たち、雇用してくれている企業もそうですし、そこで活動する選手たち、スポンサー、サポーター、それら個々の要素に分散している力がひとつに集まったときに大きな力が発揮できると思っています。急速にはできないにしても、その集め方を工夫することがレベルアップしていくカギになると思います。

桜庭　一言で言うと、ＳＷは他の企業チームとは異なり、違うスタンスでラグビーの強化をしていると思うのですが、人材を安定的に確保できていないこと、人数は確保できても在籍期間が短いとか、強化の視点からみて人材を安定して確保できていないことが一つの要因になるのかなと思います。人材を確保するための資金が必要になるとか、選手が働ける環境が必要だとか、原因を求める時に、釜石に限らず視野を広めて、そして長いスパンで考える必要があったのかなと思います。

チームディレクター
桜庭　吉彦

現状打破のKeyとは

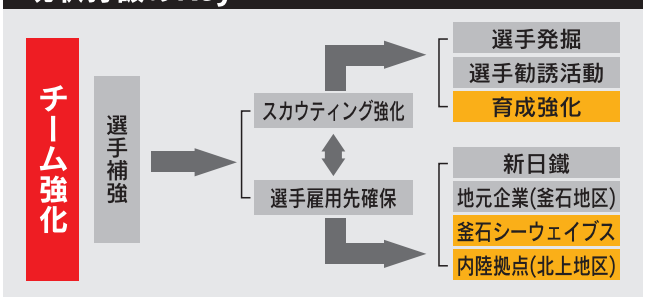
高橋　選手の仕事や雇用の方法として、今はＳＷでも選手を雇用しています。先ほど桜庭君が言いましたが、ある程度の期間を掛けることができれば、選手の雇用の仕方にもよりますが、選手を育成することが可能と思われます。リスクはあるけれど、３年後を見据えて育成する。選手個人の強化を目的に、地元に就職をしてラグビーをする期間だけでも、ここで生活をして腰を据えられる選手であれば、個人の育成もできるのかなと思います。短期的な補強をすれば、在籍期間が短くなったり、途中で辞めてしまったりとか安定的な強化ができないと思います。

桜庭　２つを同時にできれば良いのですが、短期的に強くしようと思えば安定したクラブの経営が難しくなるし、経営の安定を先に考えても、投資・強化ができなければチームとして良い結果に結びつかない。また、試合は勝負ですから、チームは勝ちを意識して挑みます。勝ち負けは判りやすいですから、勝ちつづけてトップリーグ入りする強いチームが望ましいのですが、でも、忘れてならないのは、釜石として、チームとしてありつづけることです。強いチームとして存続しつづける、２つ同時は難しいですね。そのための新たな取り組みと言いますか、試みと言いますか、それが必要になってきた。

高橋　地元就職を希望して高いレベルでラグビーを続けたいという選手の中に、こちらの望む人材がいれば一番良いのですが、就職は北上、盛岡という選手もいると思うし、実際、今は高松君がそうですね。そういう選手の可能性を広げるために北上だとか全県を視野に入れた取り組みの展開を考えました。去年からはじまったイーハトーブリーグもそれに繋がりますが、地元、釜石に限らず岩手でラグビーをやりたい、強くなりたいという選手の発掘と、その育成をＳＷがどこまでできるかそれがキーになると思います。

育成強化の具体策は

高橋　チームですから本来は一つにまとまって練習や活動ができればベストですが、県内は広いし、もし、今、内陸の選手を発掘しよう、就職先を確保しようと考えても、活動が制限されて厳しいと思います。高松君が北上から通っていますが、本当にまめに来てくれています。でも、彼の負担は並大抵じゃないと思います。また、以前はチームも内陸に移動して練習をしたこともありますが、これも選手、スタッフともかなりの負担がありました。

そこで、今年からコーチセッションということでＳＷのコーチを内陸に派遣して内陸の志の高い選手を集め、ＳＷと同じ技術的指導を行っています。しかし、移動しているとコーチにも負担がかかりますので、次のステップとして、選手のコーチングと併せて、内陸にもＳＷのスタッフ、コーチを確保して、内陸と釜石の両方で同じようなコーチン

現状打破のKey